

平成30年度 人間総合科学研究科生涯発達専攻 カウンセリングコース  
入学試験問題

解答上の注意

1. この問題冊子は、表紙も含めて7頁、問題は3問あります。
2. 問題1、問題2、問題3ともに、所定の答案用紙を使用して下さい。
3. 更紙（何も印刷されていない紙）は下書き用です。
4. それぞれの答案用紙の所定の欄には、必ず、受験番号を記入して下さい。
5. ローマ字・算用数字は1マスに2文字記入して下さい。  
その場合も、解答字数は1マスで1文字と数えます。
6. 解答し終わった答案用紙は裏返しにふせて、机の左側から順に、問題1-1、問題1-2、問題1-3、問題1-4、問題2、問題3と机の上に置いて下さい。その他の用紙は、机の右側にまとめて置いて下さい。
7. **配布された全ての用紙(問題冊子、答案用紙6枚、下書きの更紙1枚)は、一切、室外に持ち出すことはできません。**

## 問題 1

以下の7つの用語について、それぞれ100字～200字の範囲で説明しなさい。

- ① 感情の反映 (reflection of feelings)
- ② 達成動機 (achievement motivation)
- ③ 長期記憶 (long-term memory)
- ④ ストレンジ・シチュエーション法 (strange situation method)
- ⑤ スリーパー効果 (sleeper effect)
- ⑥ 心理尺度の妥当性 (validity of psychological scale)
- ⑦ PM理論 (PM theory)

## 問題2

下記の小論を読んで、以下の問いに答えなさい。

1. 小論の内容について、200字以内で要約しなさい。
2. 小論の内容を踏まえながら、透明性の錯覚についてのあなたの見解を400字以内で述べなさい。

本文は著作権法により公開していません。

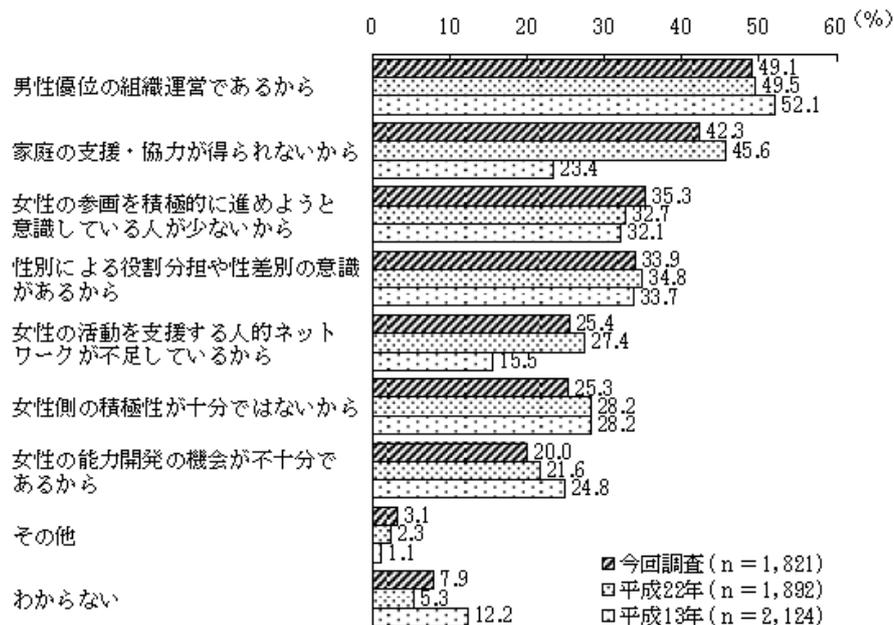
岡本真一郎 (2009). リスク・コミュニケーションの言語表現 吉川肇子 (編著) 健康リスク・コミュニケーションの手引き , 18~20 頁 より一部改変して引用

### 問題3

以下の図や表は、平成27年に東京都によって実施された、意識調査の結果の抜粋である。対象者は、東京都内に住む20歳以上の男女で、住民台帳に基づき層化無作為二段抽出された3,000人であった。有効回答は1,821人であった。

1. これらの図や表から読み取れる、女性の社会的活躍に関する問題を論じなさい。(300字程度)
2. 1. で指摘した問題を、より正確に論じるためには、他にどのような質問項目を加えるべきかを記述し、その理由や根拠を説明しなさい。(300字以内)

図1は、「あなたは、政治や企業活動、地域活動など、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。(多重回答)」への平成27年(図中は今回と表記)の回答結果を、平成13年、平成22年の結果と比較した図である。選択肢は肯定率の高い順に並べてある。正確な選択肢の内容は、表1に示した。



(注)「女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから」は平成13年の選択肢では「女性の活動を支援するネットワークが不足しているから」

図1 政策決定過程において女性参画が少ない理由 (多重回答、単位%)

表1は、図1の平成27年の回答を、性別・共働き別に集計した結果である。

表1 性別・共働き有無別にみた政策決定過程において女性参画が少ない理由（多重回答、単位%）

層	n	の性別による役割分担や性別	ら男性優位の組織運営であるか	い家庭の支援・協力が得られない	分女性であるから開発の機会が不十分	かネットの活動が不足している	い女性側の積極性が十分ではない	う女性としての参画を積極的に進められない
全体	1821	33.9	49.1	42.3	20.0	25.4	25.3	35.3
男性 共働きをしている	283	36.0	49.5	43.8	19.1	23.7	25.1	33.2
男性 共働きをしていない	314	29.6	48.4	34.4	20.4	24.2	29.3	39.5
女性 共働きをしている	267	37.8	51.7	53.9	23.2	31.1	31.8	39.7
女性 共働きをしていない	292	35.6	49.3	52.1	19.5	28.1	17.1	33.9

図2は「あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響があると思いますか。（多重回答）」への平成27年の回答結果を示している。選択肢は肯定率の高い順に並べてある。正確な選択肢の内容は、表2に示した。

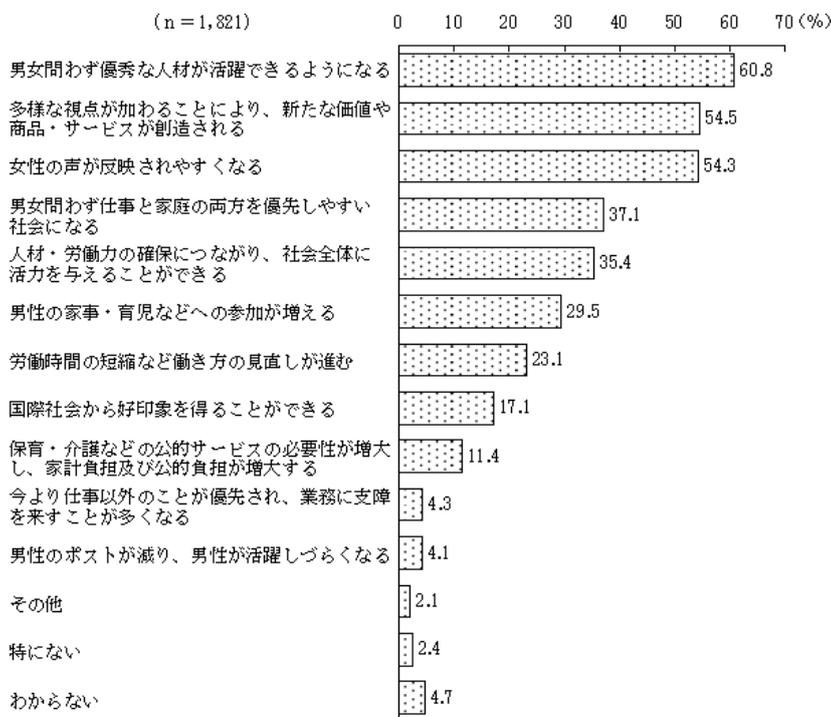


図2 女性のリーダーが増えるるとどのような影響が出るか（多重回答、単位%）

表2は、図2の平成27年の回答を、性別・共働き別に集計した結果である(抜粋)。

表2 性別・共働きの有無別にみた女性のリーダーが増えるとどのような影響が出るか  
(多重回答、単位%)

層	n	多様な価値や商品が加わることで、新しいサービスが創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができる	男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女を問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	男性の家事・育児などへの参加が増える	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要が増大する
全体	1821	54.5	35.4	54.3	17.1	60.8	37.1	23.1	29.5	4.3	4.1	11.4
男性 共働きをしている	283	58.3	38.2	52.3	18.0	64.0	33.9	21.2	26.5	4.9	4.9	10.2
男性 共働きをしていない	314	55.4	38.2	48.7	18.2	64.0	33.8	20.1	28.3	4.8	3.8	11.5
女性 共働きをしている	267	64.0	41.6	64.0	19.5	67.0	47.9	27.7	35.2	4.1	2.6	10.1
女性 共働きをしていない	292	52.4	32.2	61.0	14.7	57.9	41.4	30.1	33.2	2.7	4.5	16.1